

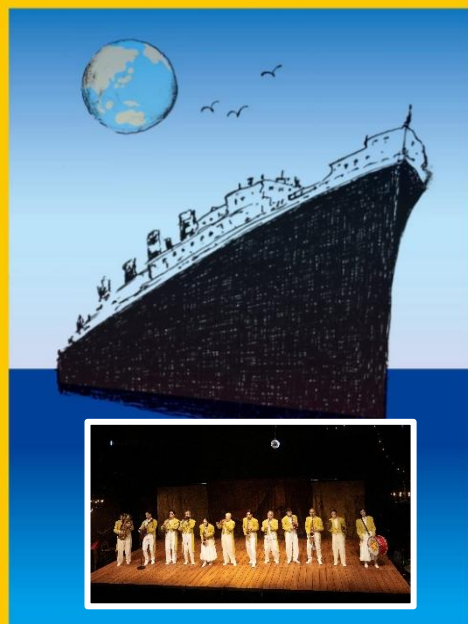
松本公演のご案内

豪華客船 タイクツニック号 沈没

Flying Theatre Jiyugekijo

Text & Direction

Kazuyoshi Kushida + Seiji Nozoe



巨大な豪華客船「タイクツニック号」に14人の俳優たちが飛び乗り、
ごちゃまぜの物語が立ち上がる！

演じることも、歌うことも、音を鳴らすことも、全てを彼ら自身が引き受けるオムニバスの音楽劇。

タイクツニック号（タイタニックではない）の限りないその価値を疑う者はいない。

劇場の匂いをまとい、終わりのない航海のように続く その時間は、

21世紀のきわめて演劇的なバーレスクです。

2023年に立ち上がったフライングシアター自由劇場の第7回公演『豪華客船タイクツニック号沈没』は、串田和美とノゾエ征爾が共同で手掛ける新作のバーレスク音楽劇です。歌や演奏を交えた独創的な舞台となります。明るく、楽しく、少し悲しく、14名の出演者全員が演奏し、歌います。

どうぞ、多くの皆様にご紹介くださいますよう、お願い申し上げます。

■ 今回の松本公演より「串田企画チームメイツ」が共同主催。

■ 松本広域の皆様にも、松本の演劇文化推進を行う団体です。

従来より「串田企画応援団」を組織して来ました。

2026年7月10日

『豪華客船タイクツニック号沈没』公演共同主催

串田企画チームメイツ 代表 鳥居 総一郎

(松本商工会議所 議員 財団法人松本観劇協会 代表)

390-0815 長野県松本市深志3丁目10-5 ル・ブランビル3F

電話 090-3142-8729 torii_so2@shirakabaso.com

『フライングシアター自由劇場』のご紹介



HOME

ABOUT

串田和美 PROFILE

WORKS

NEXT 豪華客船タイクツニック号沈没

CONTACT



■フライングシアター自由劇場 HOME <https://www.k-jiyugekijo.com/>

■フライングシアター自由劇場 とは <https://www.k-jiyugekijo.com/flyingtheatre-jg>

串田和美は1966年アンダーグラウンド自由劇場として劇団活動を始め、1975年にオンシアター自由劇場と改名し、『上海バンスキング』（1979年）『もっと泣いてよフラッパー』（1977年）などのヒット作を産み出す。

1985年Bunkamura「シアターコクーン」芸術監督に就任。

1989年にシアターコクーンのフランチャイズ劇団となり1996年30年間続けた劇団オンシアター自由劇場を解散。

2000年日本大学芸術学部演劇学科教授 兼 芸術研究所教授に就任。

2003年4月にまつもと市民芸術館館長 兼 芸術監督に就任。

2008年紫綬褒章、2013年旭日小綬章受章。 2023年3月「まつもと市民芸術館」芸術監督退任。

いま、再び自分自身が探し求める演劇活動『自由劇場』を再開するために『フライングシアター自由劇場』と名を改め、企画創作している。串田和美は「“フライング”は飛んでいるというイメージも湧くが、以前から考えていたのはワグナーのオペラ「彷徨えるオランダ人」（フライング・ダッチマン）。そう、これからも今まで通り、私の演劇魂は飛ぶように彷徨い続けていたいそれが私の永遠の、大いなる願望である。」 と言う。



串田和美

Kazuyoshi Kushida

1942年東京・麴町生まれ。俳優、演出家、舞台美術家。

1966年、吉田日出子らとともに劇団自由劇場を結成（後のオンシアター自由劇場）し、アンダーグラウンドシアター自由劇場も運営。音楽劇『上海バンスキング』『もっと泣いてよフラッパー』、『スカパン』など数々の作品で人気を集める。

様々な劇空間を自由自在に使いこなす美術・演出を得意とし、役者自身が演奏をしたり、歌や音楽や芝居を混ぜた音楽劇、パレースクやキャバレースタイル、シェイクスピアやプレヒト、歌舞伎まで作品は多彩。

85年～96年まで東京渋谷のBunkamuraシアターコクーン初代芸術監督を務め、劇場設計から参画。年末恒例のパレースクショー『ティンゲルタンゲル』などレパートリーシステムの導入、また五代目中村勘九郎（十八世中村勘三郎）と共にコクーン歌舞伎を立ち上げ『夏祭浪花鑑』『三人吉三』『四谷怪談』『桜姫』『盟三五大切』など再演必至の人気演目を揃えた画期的な企画を興す。

2000年～11年まで日本大学芸術学部演劇学科特任教授を務める。

03年4月まつもと市民芸術館初代芸術監督に就任し23年3月まで20年間務める。

主な劇場創造作品に『空中キャバレー』『K.テンペスト』『兵士の物語』『マン・イスト・マン』など。市民キャストとボランティアが参加する信州・まつもと大歌舞伎、FESTA松本など、街を巻き込んだ松本ならではの事業を次々と実現させ“演劇の街”とすることに貢献。

16年～21年まで長野県芸術監督団・芸術監督を務め、旅公演をしやすいコンパクトな「トランクシアター・シリーズ」を始動し、蔵や学校など劇場を飛び出して県内各地での上演にも精力的に取り組む。また18年より信濃毎日新聞社松本本社・信毎メディアガーデンの企画プロデューサーも務め、『朗読と音楽・串田孫一』や演劇、コンサート、ディスカッションを催す。20年6月コロナ禍で劇場が次々に閉鎖されていく中で公園の四阿で上演した『独り芝居 月夜のファウスト』は大きな反響を集め、23年6月までの3年間で全国・ルーマニアを含め25ヶ所51公演巡演。

06年芸術選奨文部科学大臣賞、07年第14回読売演劇大賞最優秀演出賞受賞。08年紫綬褒章、13年旭日小綬章を受章。15年シビウ国際演劇祭でシビウ・ウオーク・オブ・フェイム賞を受賞。22年、長野県の芸術文化に貢献したとして信毎賞を受賞。

23年10月、自身や演劇の原点を捉え直し、更に探求し企画製作していく「フライングシアター自由劇場」を新たに立ち上げる。